

[科目名] 人間の歴史				[単位数] 2単位		[科目区分] 教養科目	
[担当者] 下村 育世			[オフィス・アワー] 時間:初回の授業で説明する 場所:研究室			[授業の方法] 講義	
[科目の概要] <p>「今日は何日か」は当たり前ではない——暦から読み解く人間の歴史。</p> <p>本授業「人間の歴史」は、暦(こよみ)を手がかりに、人間がどのように時間を認識し、社会を組織し、文化を築いてきたのかを考える。暦は単なる日付の体系ではなく、天文学、政治権力、宗教、民俗、日常生活と深く結びつき、人間社会の時間秩序(休日や祭り、仕事や生活のリズムといった「時間の決まりごと」)を形づくってきた。</p> <p>本授業は暦の制度史を学ぶことを目的とするだけでなく、暦や関連史料を素材として、歴史学がどのように過去を読み解くのかという方法そのものを学ぶことを重視する。史料の読み方、視点の違いによる解釈の変化、当たり前だと思っている現在を歴史的に問い直す姿勢を身につけることを目標とする。</p> <p>授業前半では「歴史とは何か」という基本的な問いから出発し、史料の読み方や歴史学の方法を学ぶ。続いて、中国の冊封体制と暦、日本の旧暦と陰陽道、西洋天文学の受容、明治改暦による時間秩序の転換、近代国家による暦の統制、さらに戦後の暦の自由化までを扱う。講義に加えて簡単なワークや史料読解を取り入れ、暦を制度としてだけでなく、人びとの生活や信仰と結びついた「生きられた時間」として捉えることを目指す。</p>							
[「授業科目群」・他の科目との関連付け]・[なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか] <p>暦は、政治権力の正統性、宗教儀礼、年中行事、労働や生活のリズムと密接に結びついてきた。暦の変遷をたどることは、国家と人びと、中央と地域、制度と民俗の関係を読み解くことにつながる。また、同じ太陽や月を見ながらも、文化によって時間の区切り方が異なることを知ることで、「現在の時間のあり方」が歴史的に形成されたものであることを理解できる。</p> <p>本授業では、史料を通して過去を読み解く過程を重視し、歴史が暗記ではなく、解釈と検証の積み重ねによって構築される学問であることを学ぶ。こうした視点は、現代社会の制度や価値観を批判的に捉え、多様な考え方を尊重する基礎的な教養として位置づけられる。</p>							
[科目の到達目標] <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 暦の歴史的変遷を通して、人間社会における時間の捉え方や生活のあり方の変化を説明できる。</li> <li>2. 史料を用いて過去を理解するという歴史学の基本的な方法を理解し、視点の違いによって解釈が変わりうることを説明できる。</li> <li>3. 授業で扱った具体的事例をもとに、現在の時間感覚や社会制度を歴史的に相対化して考えることができる。</li> <li>4. 自ら問いを立て、史料や授業内容を踏まえて簡潔に文章でまとめることができる。</li> </ol>							
[ディプロマ・ポリシー(DP)との関係]							
学部				学科			
DP1	DP2	DP3 ○	DP4 ○	DP1	DP2	DP3	
[学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫] <p>本科目は今回が初開講であるため、授業評価に基づく実績はない。今後は学生の授業評価やリアクションペーパーを参考にしながら、初学者にも理解しやすい授業となるよう内容や方法の改善を行っていきたい。</p>							
[教科書] <p>適宜授業ごとにレジュメや資料を配布。</p>							

〔指定図書〕	
〔参考書〕	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・林淳『天文方と陰陽道』(日本史リブレット46)山川出版社、2006年。</li> <li>・下村育世『明治改暦のゆくえ』ぺりかん社、2023年など。授業時に都度提示する。</li> </ul>	
〔前提科目〕	
<p>本授業は、日本史・東洋史・民俗学・宗教学・文化人類学などの分野と関連する学際的な内容である。左記の授業も履修するとさらなる理解の深まりを期待できる。</p>	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点 60 点、期末レポート 40 点を総合して評価する。</li> <li>・平常点は、授業内で課す小クイズやリアクションペーパーなどの提出と理解・達成度を総合的に判断して評価する。</li> <li>・期末レポート課題と評価方法については、授業時に説明する。</li> </ul>	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕	
<p>本授業では、歴史を「覚える対象」としてではなく、問いを立て、史料を読み、考え続ける営みとして共有したい。講義では研究成果を紹介すると同時に、暦や史料を素材として、学生の皆さんとともに人間の時間感覚や社会におけるあり方を考えていく。</p> <p>受講にあたって専門知識は求めないが、各回の内容を自分なりに整理し、「なぜそうなったのか」「別の見方は可能か」と主体的に考える姿勢を期待する。簡単な課題やワークへの積極的な参加を通して、歴史を身近な問題として捉えてほしい。</p>	
〔実務経歴〕	
授 業 ス ケ ジ ュ ー ル	
第 1 回	<p>テーマ(何を学ぶか): ガイダンス</p> <p>内 容: 大学で学ぶ歴史とは</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジюмеにリストを提示</p>
第 2 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 歴史学と史料</p> <p>内 容: 近代歴史学の成立/史料から「他者」を理解する</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジюмеにリストを提示</p>
第 3 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 世界の暦: 文化によって異なる暦</p> <p>内 容: 暦とは何か/文化によって時間の区切り方は違う/暦法の種類</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジюмеにリストを提示</p>
第 4 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 中国の冊封体制と暦: 中国暦と古代日本</p> <p>内 容: 中国の暦/中国の冊封体制と暦/中国暦を使い始めた日本</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジюмеにリストを提示</p>
第 5 回	<p>テーマ(何を学ぶか): 「旧暦」とは何か: 古代から近世</p> <p>内 容: 「旧暦」とは何か/「旧暦」の構造</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジюмеにリストを提示</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか): 暦と陰陽道1: 古代から近世</p> <p>内 容: 暦と生活 / 陰陽道と暦 / 暦注の歴史</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジュメにリストを提示</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか): 暦と陰陽道2: 近代から現代</p> <p>内 容: 暦注の排除 / 大安・仏滅 / 現在も残る「旧暦」の伝統</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジュメにリストを提示</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか): 西洋天文学の発展と衝撃: 地球説(地球は丸い)と地動説</p> <p>内 容: キリスト教世界における地動説 / 日本における西洋天文学の衝撃</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジュメにリストを提示</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか): 暦と権力: 信長の時代から暦の統一まで</p> <p>内 容: 暦の統一前夜 / 貞享の改暦 / 西洋天文学の影響とその後</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジュメにリストを提示</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか): 近代の暦改革1: 明治改暦の衝撃</p> <p>内 容: 文明開化と明治改暦 / 明治改暦とは / 突然の改暦 / 改暦への風刺</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジュメにリストを提示</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか): 近代の暦改革2: 改暦の背景と影響</p> <p>内 容: 改暦の通説 / 改暦の背景</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジュメにリストを提示</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか): 近代の暦改革3: 民俗の時間との衝突</p> <p>内 容: 神社の例祭日の日取りをどうする?</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジュメにリストを提示</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか): 暦と民俗1: 「お化け暦」の誕生</p> <p>内 容: 暦の統制と流通制度 / 「お化け暦」の誕生</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジュメにリストを提示</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか): 暦と民俗2: 太陽暦の受容</p> <p>内 容: 太陽暦の受容と「旧暦」使用の継続 / 青森と京都を事例に</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジュメにリストを提示</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか): 暦と戦後: 時間の自由化とカレンダー</p> <p>内 容: 暦の統制の解除 / 暦の自由化 / 祝日法の制定 / 暦からカレンダーへ</p> <p>教科書・指定図書 : 配布するレジュメにリストを提示</p>
試験	<p>上記の通り、平常点と期末レポートで成績評価するため、期末試験は実施しない。</p>